



あおき
青木の
ちんじゅひかわじんじゃ
鎮守氷川神社の
おお
大ケヤキと
ミンミンゼミ



鎮守氷川神社の大ケヤキ



川口市青木 5-18-48
鎮守氷川神社



鎮守氷川神社は室町時代初期に建てられた、足立郡芝郷青木村の惣鎮守で須佐之男命・櫛稲田姫命の夫婦神を祀る大宮氷川神社の直系社とされる神社です。

この神社にはご神木の夫婦棕と大ケヤキの木があり、とくに樹齢400年ともいわれる大ケヤキは川口市の指定保存樹木になっており、別名「元氣の木」とも呼ばれて、木に触れることで木の元気が分けてもらえるといわれています。

ほかにも境内には、富士塚もあり、登ると富士登山をしたのと同じご利益があるとされています。



境内の富士塚



ケヤキ

ケヤキ(樺)はニレ科ケヤキ属の落葉樹です。秋には赤や黄色に美しく色づく、ホウキを逆にしたような「樹木らしいかたち」をしており、街路樹や庭木として好まれています。埼玉県「県の木」にも指定されており、建材や家具・建具としては木目の美しさで愛好されてきました。セミやチョウ、スズメバチには樹液も好まれており、神社・仏閣・旧跡ではしばしばミンミンゼミが集まって、夏の風物詩を奏でる風景として親しまれています。

ミンミンゼミ

ミンミンゼミは名前のとおり「ミンミンミン」という鳴き声で知られる、アブラゼミとならんで日本でも代表的なセミの一種です。アブラゼミが平地の公園や樹木に多いのにくらべると、どちらかといえば傾斜のある公園や森林などに多く見られます。これは傾斜した土の中に産卵するため、条件さえあえば街路樹の植え込みなどにも産卵するため、東日本では町中でミンミンゼミを見ることが増えていますが、西日本や日本海側では平野部でミンミンゼミを見ること少ないようです。川口市内では神社やお寺・富士塚などのまわりの、ケヤキやサクラ・モミの木でさかんに鳴いている姿を、7月から9月一杯にかけて見ることができます。

アブラゼミ



ミンミンゼミ

